

しまの風

21世紀の主役たち

発行者 杵藤農林事務所杵島農業改良普及センター

佐賀県杵島郡白石町大字東郷2546-2

TEL0952-84-3625 FAX0952-84-6425

E-mail : kitounourin@pref.saga.lg.jp

URL :http://www.pref.saga.lg.jp/list02464.html

平成31年3月

第48号



江頭和宜さん



永松惇平さん

「平成30年度TK4HアグリマネージメントCLUB冬のつどい」を1月18日に開催しました。今年もクラブ員や就農希望の農業高校生・大学生、関係機関が多く集まる中でクラブ員6名が熱い発表を聞かせてくれました。

「農業青年の提言」では、5名が発表を行い、最優秀賞は、地域農業の活性化を目指し親元でイチゴ栽培を始め、楽しく稼ぐモデルケースになりたいと力強く発表された江北新経営者クラブの江頭和宜さんが選ばれました。

大町町の岩淵かな子さんは、女性経営者として、佐賀県産タマネギの魅力を全国に発信していきたいと発表されました。また、レタスの栽培と苗受託を行い、生産と経営の安定化を目指しながら、家族経営の限界に挑戦していくと発表された白石町の江口義樹さん。タマネギや露地野菜に取り組み、失敗を乗り越えながら経営を発展させたいと発表された白石町の野口隼汰さん。様々な経験のなかで農業の面白さを感じ、雇用を入れた大規模経営を目指していると発表された白石町の橋本高斗さん。それぞれに甲乙つけがたい素晴らしい内容でした。

「プロジェクト発表」では、白石町の永松惇平さんが、白石青年実業会でのクラブ活動の活発化に向けた取り組みとして、レンコンの勉強会の開催や、カモ対策のための防鳥網設置などをクラブ員みんなでを行い、相互のつながりの強化につながったことを発表され、最優秀賞に輝きました。

最優秀賞の江頭さんと永松さんは2月6日に佐賀市で開催される佐賀県農業青年冬のつどいで杵島地区代表として発表されます。頑張ってください！

熱い思いを胸に!!



受賞おめでとぅございます



緑白綬有功章受章

北原 靖章
きたはら やすあき



農業後継者の確保・育成に貢献されたことが認められました。



江北町の北原靖章氏は、平成30年11月14日に、東京都で開催された平成30年度（第102回）農事功績者表彰式において、「緑白綬有功章」を受章されました。受章理由として、排水対策と裸麦の導入による麦の生産拡大や農地集積と交換分合への積極的な取り組みによる米麦大豆の土地利用型農業を確立するとともに、消費者から求められる安全・安心な農産物の生産と環境に優しい農業を実践されており、県農業士として、地域の

平成30年度全国優良経営体表章 （生産技術革新部門）

木下 重信
きのした しげのぶ



白石町の木下重信氏は、平成30年度全国優良経営体表章（生産技術革新部門）において全国担い手育成総合支援協議会長賞を受賞され、11月に山形県で開催された全国農業担い手サミットの中で表彰されました。木下氏は、施設を徐々に規模拡大し、現在では140aの施設でスイートピーを基幹品目とした大規模雇用型安定経営を実現されています。今回の表彰により、木下氏の経営力の高さが全国的にも認められました。

第15回お米日本一コンテスト inしずおか 金賞受賞



「橘産さがびより」の生産に取り組みます。



平成30年12月7・8日に静岡県で開催された「第15回お米日本一コンテストinしずおか」にて、武雄市橘町の「橘産さがびより」が金賞を受賞しました。コンテストは全国580もの出品から、機器審査を行い75品を選出、その後、お米マイスターや食味鑑定士による食味審査が行われ、橘産さがびよりは金賞であるトップ30に選出されました。今後さらなる食味向上を目指し、地域一体となっておいしい「橘産さがびより」の生産に取り組みます。

佐賀農業賞 受賞者紹介

若楠ポークで消費拡大を目指す



原口英明・恵美夫妻は武雄市若木町で飼養頭数900頭規模の養豚経営を営まれています。
就農後コツコツと養豚技術を磨き、4年に1度行われる佐賀県畜産共進会・肉豚枝肉の部(平成26、30年)を連覇されるなど、養豚技術は県内トップクラスと評価されています。手塩にかけて育てられた肥育豚は若木ブランド「若楠ポーク」として武雄市内の観光施設で提供されており、地産地消・地域振興に貢献されています。

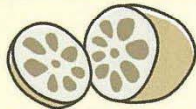
先進的農業経営者の部 優秀賞
原口英明・恵美

こだわりのいちごづくりと多角経営の実践



唐島晶悟・花恵夫妻は、江北町でUターン就農し高設イチゴ栽培を始めたられました。徹底した土づくりときめ細かい管理による低農薬栽培を実践し、大粒で甘いイチゴづくりを目指されています。
独自販売に取り組み、ギフト商品として高単価での販売を実現され、また、イチゴ狩りや加工品販売を行い、多角経営を実践してこられました。このような経営形態は、今後の農業経営モデルの一つとして、高く評価され、さらなる活躍が期待されます。

若い農業経営者の部 最優秀賞
唐島晶悟・花恵



福富蓮根ブランドは組織で守る



ふくとみ蓮根出荷組合は、旧福富町の生産者16名によつて蓮根の生産・販売を請け負う初の任意組合組織として発足し、現在15戸で活動されています。
消費者ニーズに因應するため、品種の切り替えや出荷規格の見直しに取り組み、有利販売に繋がられています。また、地域の都市交流事業に協力し、れんこん収穫体験の圃場の提供やホームステイを受け入れるなど、地域農業の発展にも貢献されています。

組織集団の部 優秀賞
ふくとみ蓮根出荷組合

地域情報コーナー

「武雄・杵島地区 中山間シンポジウム」 を開催しました

平成30年11月28日に武雄市北方公民館において、管内の市町、JA、共済組合、県機関が主催し、「武雄・杵島地区中山間シンポジウム」を開催しました。管内での中山間地域を対象としたシンポジウムは初めての開催となり、中山間直接支払取組集落の代表者、農業者等約180名の参加がありました。シンポジウムでは農山村地域経済研究所長楠本雅弘氏に「中山間地域の農業・農地を守るための方法」と題し、ビジョンに基づいた地域づくりについて講演していただきました。



武雄・杵島地区中山間シンポジウム

新規就農者の早期経営安定を目指して

平成30年度の新規就農者は武雄・杵島管内で45名。そのうち、Uターン就農者20名、新規卒業者9名、新規参入者7名、法人就農者9名でした。

そのような中、杵島普及センターでは、早期経営安定を支援するため、新規就農者の個別巡回指導を行うとともに「青年農業者等育成塾」を実施しています。育成塾では、農業経営の基礎などを学ぶ「基礎講座」全6講座に加え、土地利用型・施設園芸のコース別選択講座を全8講座実施しました。今後も新規就農者の支援を行っていきます。



平成30年度新規就農者励会での集合写真



「育成塾」にて先輩の経営事例を聞く受講生

「いちごさん」デビュー

平成30年10月16日、佐賀県育成のつややかな紅色のかじって甘いイチゴ新品種がブランド名「いちごさん」でデビューしました。

杵島白石地区においては、平成29年に1戸で試験販売が行われ、5t/10a以上の収量を達成しています。平成30年は9戸で生産がスタートし、平成31年4月開講のイチゴトレーニンングファームでも生産にむけ、育苗がスタートします。各地区のアクションプランをもとに、さらなる生産拡大が期待されます。



多収量品種「いちごさん」